

# 地域との共生



嵯峨野線復線化



岡山駅西口自由通路



新型車両特急「はまかぜ」出発式

鉄道を核に事業を営む当社は、地域を離れては存在し得ません。

しかしながら会社発足後、競争環境の激しい西日本エリアにおいて事業を継続するなか、次第に内向きな風土を形成し、また、様々な成功体験を積むなか、地域との双方向の関係構築を怠ってきたのではないかと考えています。

今回、中期経営計画を見直し、地域の信認によって存在を許されるとの自覚を新たにし、地域の立場に立ち、地域の活性化に積極的に貢献する姿勢を明確にすることとしました。

地域と共に持続的発展を実現するため、地域起点の発想に立ち、地方自治体や他交通機関等との連携を強化し、JR西日本グループの事業活動を通じて西日本地域の活性化に取り組みます。さらに、「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」「地域社会」の5分野を中心とした、地域に根ざした社会貢献活動を推進します。

これらの活動を積み重ね、地域、社会から信頼される企業となることを目指し、地域とともに歩んでまいります。



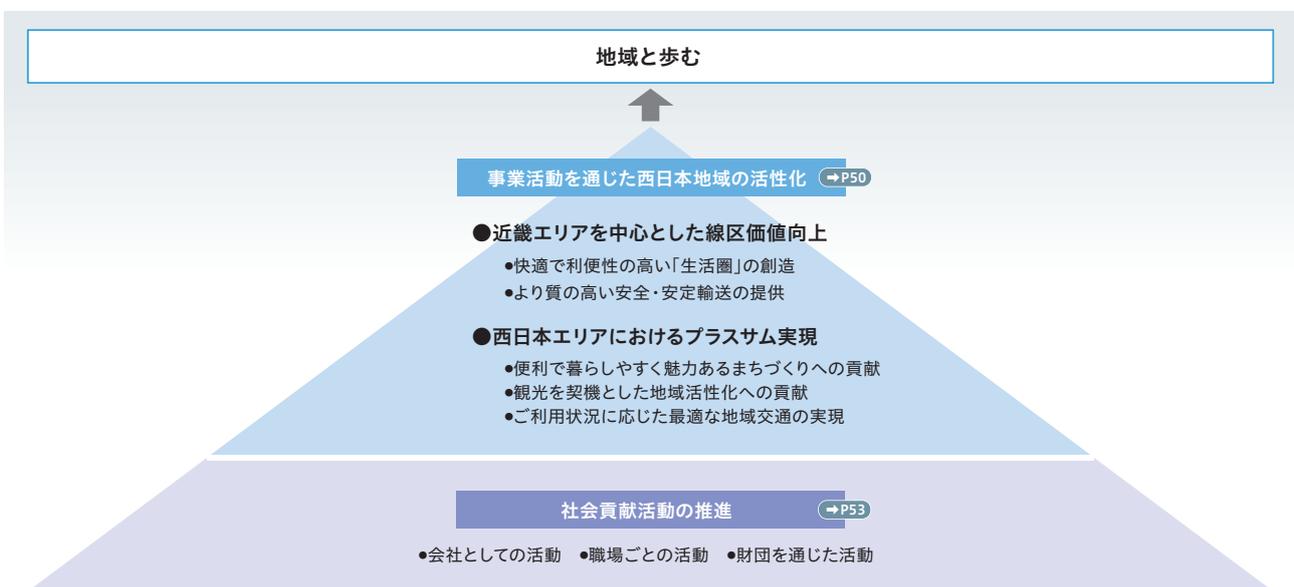
取締役兼常務執行役員 総合企画本部長 来島 達夫

## ■平成21年度重点取り組み事項・実績及び平成22年度重点取り組み計画

Plan	Do	Check	Action
平成21年度CSR重点取り組み事項	平成21年度主な取り組み事項・実績	総合評価	コメント
JR西日本あんしん社会財団、博物館の社会的意義、及び位置づけの整理	・「JR西日本あんしん社会財団」を設立し事業計画に基づき取り組みを推進	△	会社として、社会貢献活動全体についての位置づけのさらなる整理が必要
職場レベルでの社会貢献活動の充実	・職場での活動を支社誌等へ掲載 ・情報漏えい問題以降、「地域との共生」の一環として社会貢献活動を重視する方針を打ち出したことを踏まえ、支社等に担当者を指定し推進体制を整備	△	活動実績の把握について、仕組みが十分に機能せず、全社としての実績把握は不十分
			平成22年度CSR重点取り組み計画
			★中期経営計画を見直し、当社のミッションとして「事業活動を通じた西日本地域の活性化」を定め、新たな戦略として「地域との共生」を策定 ・「JR西日本あんしん社会財団」を通じた活動の位置づけを、報告書内で整理の上、活動を充実 ・社会貢献活動の充実に向けた管理体制の定着

※総合評価 ○：計画を上回った、○：計画どおり進んだ、△：進んでいるがスケジュールの遅れあるいは解決すべき課題がある、★：期中に追加した重点取り組み事項

## ■地域との共生 全体像図



## 事業活動を通じた西日本地域の活性化

地域起点の発想に立って、地方自治体や他交通機関等との連携を強化し、トータルでWIN-WINの協力関係を構築していきます。「近畿エリアを中心とした線区価値向上」「西日本エリアにおけるプラスサム実現」「観光を契機とした地域活性化」に、グループ一体で取り組むことを通じて、地域の皆様のより豊かな暮らしを支えていきます。

## 近畿エリアを中心とした線区価値向上

### 快適で利便性の高い「生活圏」の創造

「駅及び街の機能が充実し、使い勝手が良く、住みたくなる線区」の創造に向けた取り組みを推進しています。

具体的には、駅及び駅周辺においてショッピング、クリニック、フィットネス、保育サービス等を充実させ、暮らしを豊かにする様々なサービスを提供していきます。また、駅へのアクセスを良くするために、バス路線との連携、駐車場・駐輪場を充実させるとともに、駅のサービスを向上させるため、トイレの高品質化といった設備改良や社員によるCS向上を図っていきます。



さらに今後は、JR神戸線や琵琶湖線を線区価値向上のモデル線区とし、地域の特徴にかなない、子育て世代にもご利用いただきやすい魅力ある線区を目指していきます。



### 須磨海浜公園駅周辺の街づくり

クリニックモール、フィットネスクラブ、高齢者向け住宅などからなる「JR須磨海浜公園西NKビル」(写真左)  
大型スーパーマーケットと一体的に開発したマンション「ジェイグラン須磨海浜公園」(写真右)



### 駅型保育園 「JRキッズルーム」

子育て世代のお客様に対し、月極保育や一時保育等のサービスを提供しています。



### 奈良駅高架下商業施設 「ピエラ奈良」

奈良・大和路の玄関口にふさわしく、華やかさと歴史ある街並みのイメージを活かしたデザインとなっています。

## 宝塚駅橋上化・バリアフリー化

宝塚駅ではJR・阪急電鉄相互間を乗り換えるお客様が多いため、乗り換えがスムーズになるよう、JR・阪急電鉄間の連絡通路を延ばした上で、新しい駅舎をつくり、改札口と同フロアで接続するようにしました。また、宝塚の玄関口にふさわしい「集える駅」となるよう、コンコースを広々とした吹き抜け空間とし、明るくわかりやすいつくりをしました。バリアフリー設備については、各ホームにエレベーター1基、エスカレーター上下1基ずつ設置し、多目的トイレを備えました。

デザインコンセプトは、「宝塚の歴史を感じさせる、エレガントで華やかな駅」であり、地元の方々と話し合い、「宝塚市都市景観デザイン審査会」の審査を経て、上品で華やかなつくりになりました。また、自然光の取り込みや屋上緑化など、環境面に配慮しました。改札口対面には、商業施設「エキマルシェ宝塚」が開業し、駅周辺のにぎわいを創出しています。



宝塚駅コンコース

駅は、JR西日本というよりもむしろ地域の施設であり、設計の際には様々なお客様に便利で、かつその地域に合っているかを深く検討します。

地域の皆様の立場で誠実に考えることが重要で、お客様にご迷惑をおかけする夜間作業など、工事の進捗状況を随時丁寧にお伝えするよう心がけました。

駅で働く皆さんに対しても、難解な設計図を平易に書き直し解説するなど工夫しました。

また、動線や案内サインもユーザー目線にこだわり、シンプルな美しさを追求し、開業時に新しい駅に笑顔で来られるお客様の姿に大きな喜びを感じました。

これからもJR西日本の一員として、ご利用になる方のお気持ちに沿う施設づくりに努めています。



大阪工事事務所 大阪建築工事務所  
副所長

松本 孝之(左)

大阪工事事務所 大阪建築工事務所  
(現 ジェイアール西日本  
コンサルタンツ(株))

小川 敏明(右)

## より質の高い安全・安定輸送の提供

ダイヤ乱れの際、ご利用のお客様への影響を低減するため、駅へのディスプレイの増設などにより、お客様への情報提供を充実させており、今後は吹田駅・灘駅に列車折返設備を新設することで、より弾力的な列車運用を可能にしています。

また、踏切の視認性向上、青色照明設備の設置等を進め、踏切事故の発生事象の減少に努めています。

さらに、非常ボタン、車両連結部の転落防止ホクの整備等により、駅ホームからのお客様の転落事故の減少に努めるとともに、今後は、北新地駅に可動式ホーム柵を設置することとしています。

これらの取り組みにより、お客様のご協力もいただきながら、より質の高い安全・安定輸送の提供に努めています。

→安全に関する取り組みについては、P13～16、P23～30をご覧ください。

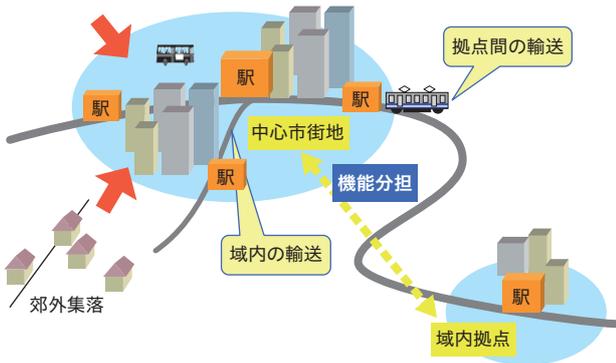
### 用語解説

●プラスサム：限られた原資を奪い合って全体としてはプラスマイナスゼロになるという状態(ゼロサム)ではなく、全体が拡大することにより、各部分もそれぞれ同時に拡大し得る状態を言います。

## 西日本エリアにおけるプラスサム実現

### 便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献

駅での他の交通機関への乗り換えをよりスムーズにすることで、地域にとってより便利な公共交通を目指しています。地元自治体や地域の皆様と協力し、「まちの玄関口」としての駅・周辺の機能を充実させ、駅からはじまるまちづくりに向け、主体的に役割を果たします。また、駅などの拠点に生活機能・都市機能を集約することで、より効率的な都市運営に参画し、コンパクトシティの構築に積極的に貢献していきます。



### 姫新線輸送改善

姫新線姫路・上月駅間では、列車の速達性、快適性を向上するため、地元自治体の協力を得ながら、平成22年3月に列車の増便、新型車両の投入などの輸送改善を行いました。同時に、自宅から目的地まで、より速くバリアなく快適に移動できるよう、パーク&ライドの社会実験を

実施するとともに、駅の橋上化やバリアフリー化を実施しました。姫新線本竜野駅駅舎の橋上化では、特産物展示販売所を併設し、地域の魅力発信の場としても活用いただいています。姫新線本竜野駅橋上化開業式典



## 観光を契機とした地域活性化への貢献

交通部門に限らず幅広い分野で地域と連携し、地域への集客と、おこしいただいたお客様への充実したおもてなしを行い、地域と協働して観光開発を推進しています。

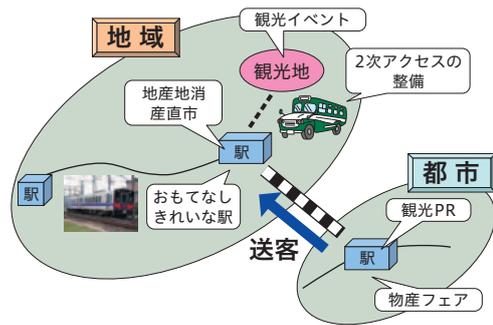
とりわけ、平成24年秋に予定している山陰デスティネーションキャンペーンに向け、地元自治体や観光事業者と緊密なコミュニケーションを取り、その成果を最大限に引き出していきます。



「熊野古道号」の運行  
語り部がバスに乗り込み、熊野古道をご案内します。ベストスポットではハイキングも実施しています。



「DISCOVER WESTキャンペーン」ポスター  
地元自治体や旅行会社と連携し、首都圏から中国地方へお客様におこしいただく「DISCOVER WESTキャンペーン」を実施しています。



## ご利用状況に応じた最適な地域交通の実現

引き続き、地元自治体との連携や地域の協議会等を通じ、鉄道の活性化に対する協力関係を構築していきます。

また、ご利用状況にあった最適な輸送モードへの転換に対する理解も深めていただくよう、地域との対話に努めていきます。

## 奈良デスティネーションキャンペーンの取り組み

平成22年は、平城京への遷都(710年)から1300年に当たり、奈良県では年間を通じて「平城遷都1300年祭」が開催されました。このイベントにあわせ、平成22年春、JRグループや地元自治体などが一体となって、「奈良デスティネーションキャンペーン」を開催し、臨時特急「まほろば号」を運転するとともに、県内でご利用いただけるお得な商品を開発するなど、送客に努めました。また奈良エリアを管轄する大阪支社をはじめ、グループ会社を含めた全社員が、統一感・一体感を持ってキャンペーンを盛り上げるため、共通のエンブレムを着用し、奈良を訪れるお客様に、視覚的に「おもてなし」の気持ちをお伝えしました。



新大阪・奈良駅間で、臨時特急「まほろば号」を運転しました。約20年ぶりに奈良を走る特急として脚光を浴びました。(写真は出発式の様子)

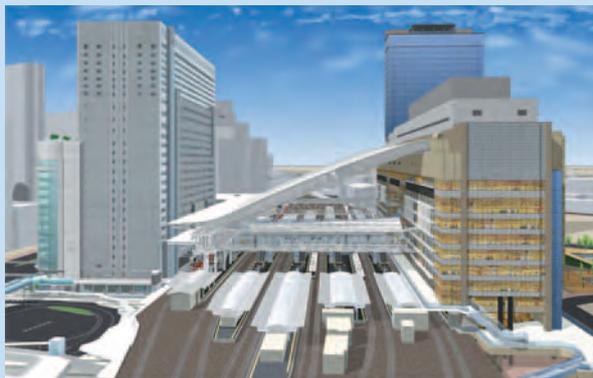


デスティネーションキャンペーンを機に発足した奈良地区の若手社員によるCS向上チームは、臨時特急「まほろば号」での記念乗車証配布など、自発的な活動を行いました



大阪支社で発足した「スマイルCSプロジェクト」は、支社内全職場の一体感醸成にも力を注ぎました。

大阪駅が生まれ変わる  
—平成23年5月大阪ステーションシティ誕生—



大阪駅周辺地区は私鉄、地下鉄など周辺にある6つの駅をあわせると、1日約250万人が乗降する西日本最大の交通拠点です。

その中心である大阪駅は1日約85万人のお客様がご利用されるJR西日本最大のターミナルであり、関西の鉄道ネットワークの拠点でもあります。

その大阪駅を、関西・大阪の玄関口にふさわしい、発見と感動にあふれたGrand Station<sup>グランドステーション</sup>とするべく、また「駅と街がひとつに」という考え方のもと、平成16年から「駅改良」「広場・通路の整備」「新北ビル開発（ノースゲートビルディング）」「アクティ大阪増築（サウスゲートビルディング）」を4つの柱として大阪駅開発プロジェクトを進めています。



〈大阪ステーションシティのロゴマーク〉

ロゴマークは、OSAKAの「O」であり、正円でもあるシンプルなデザインです。関西・大阪の中心・玄関口であることを表現しつつ、このまちが先進の都市機能を集積した一大拠点であり、交通ネットワーク、街とのアクセスの“中心点”、新しい生活スタイル、文化、旅を次々とスタートさせていく“サイトO”（=O地点）、人と人をつなぐコミュニケーションの“輪”になってほしいという願いを込めました。

〈駅改良〉

ホーム上空に延長約180m、幅約100mのドームを設置、ほかに類のない開放的で壮大な空間が誕生します。

また、御堂筋口コンコース内の中2階部分を撤去し、1階のコンコースを拡幅したほか、橋上駅舎の設置により新たな動線を増やすなど円滑な移動を実現します。これらにあわせ、エスカレーター、エレベーターを増設し、利便性も飛躍的に向上します。

〈広場・通路の整備〉

大阪ステーションシティには「水」・「緑」・「時」・「エコ」・「情報」を共通テーマに、憩いやにぎわいある個性的な8つの広場を設けます。また、新たに南北連絡通路を設置するなど駅周辺のまちとのスムーズな移動を可能にしています。人々が集い、行き交う、多彩な空間も大阪ステーションシティの魅力です。

〈ノースゲートビルディング〉



駅北側の「ノースゲートビルディング」は百貨店、専門店、エンターテインメント、サービス、オフィス、トップレストランの6つのゾーンで構成されるおよそ21万m<sup>2</sup>の駅ビルです。発見と感動にあふれた新しい空間が誕生します。

〈サウスゲートビルディング〉



大阪駅の南側の玄関口に位置するアクティ大阪は、南の顔づくりとして実施する駅前広場の再整備にあわせて増築します。これにあわせ動線を改善し、周辺地域への回遊性を向上させるとともに百貨店の増床・リニューアルにより新たなにぎわいを創造します。



開発中の大阪ステーションシティ

大阪駅開発プロジェクトにかける思い

大阪駅開発プロジェクトは、関西再生をリードする拠点として期待されている大阪駅北地区の開発に先駆けて、大阪のランドマークとして生まれ変わるべく平成16年に着手しました。

「発見。感動。OSAKA Grand Station」をコンセプトに、大規模なドーム空間や四季の彩りを感じる8ヶ所の広場を備え、百貨店やオフィスなど様々な機能を配置しました。関西・大阪の玄関口にふさわしく、多くのお客様が思い思いの時を過ごせる新しい大阪駅を創造します。また、「駅からまちへ、まちから駅へ」という考えのもと、大阪駅の南北を結ぶ連絡通路をはじめ、歩行者に優しいネットワークの構築により駅周辺地区の回遊性や利便性を高めるとともに、周辺各事業者の皆様と連携したエリア全体での魅力づけや情報発信を積極的に行うことなど、このプロジェクトは大阪駅周辺地域全体の活性化にも寄与できるものと考えています。



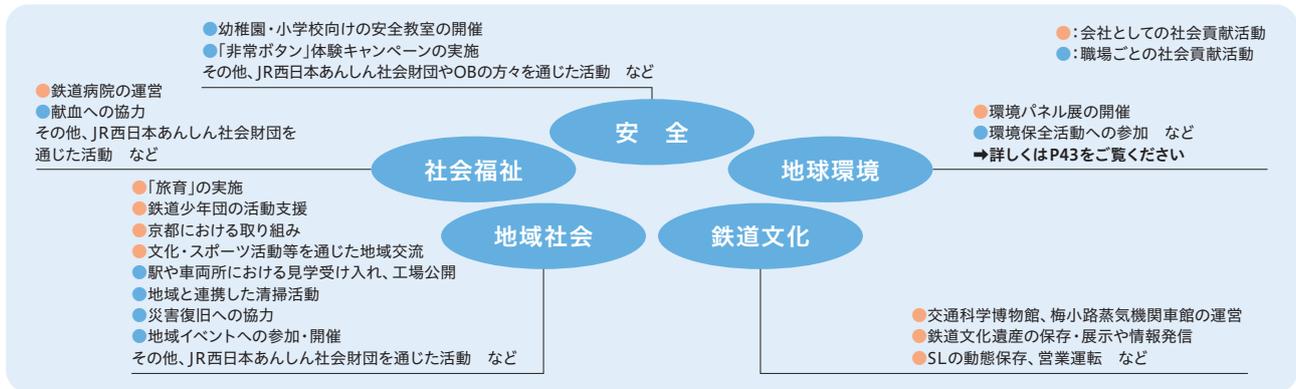
大阪駅 「時空(とき)の広場」



取締役兼専務執行役員  
創造本部長  
近藤 隆士

## 社会貢献活動の推進

地域とともに持続的に発展できる企業でありたいと考えており、事業活動に加え、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。事業と関係が深く、主体性を発揮し得る「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」「地域社会」の5分野を中心に、今ある取り組みを大切にしながら、世の中のニーズに応じて、地域の皆様とも連携して活動の輪を広げ、息の長い、力強い取り組みに育てていきます。



### 会社としての活動

#### 地域社会 鉄道文化 「旅育」の実施

次世代を担う子どもたちの健全な育成を支援するため、小学生・幼稚園児などの皆様を対象に、駅見学に列車の体験乗車を加えた課外学習プログラム「旅育(たびいく)」を実施しています。

平成21年度は山陽新幹線「こだま」号を中心に体験いただき、



平成22年度からは「くろしお」号等の在来線特急列車にも拡大しています。

鉄道の利用方法や乗車マナー、地球環境との関わりについて、楽しく学んでいただいています。(写真は新倉敷駅)

#### 鉄道文化 博物館の運営、鉄道文化遺産の保存

鉄道の歴史、文化を知り、魅力にふれていただくため、交通科学博物館(大阪市)、梅小路蒸気機関車館(京都市)を運営しています。またSLを実際に運転できる状態で整備、保存し、地域のご協力を得ながら山口線や琵琶湖線で営業運転を行っています。そのほか、エリア



内の各地で鉄道文化遺産の保存・展示も行っています。

津山駅では旧津山扇形機関車庫と鉄道展示室の一般公開を行っています。

#### マレーシアへの車両譲渡

大阪・東京駅間を運行し、「ブルートレイン」の愛称で親しまれた寝台急行「銀河」の寝台車など車両8両を、マレーシア鉄道公社に無償で譲渡するなど、国際貢献にも寄与しています。



#### 地域社会 鉄道文化 鉄道少年団の活動支援

青少年の交通道徳の高揚を目的に財団法人交通道徳協会が運営している「鉄道少年団」の活動を、会社発足以来、支援しています。



公德キャンプ大会、サマー研修などを各地で開催しています。(写真は大阪府和泉市信太山でのサマー研修)

#### 地域社会 京都における取り組み

京都では、地元有識者のご意見をいただきつつ、観光シーズンの市内交通渋滞緩和を目指した「鉄道+徒歩」による観光のPRや、社員有志による観光案内ボランティアに積極的に取り組んでいます。また、京都の伝統的な服飾文化の情報発信を目的としたファッションショー「Fashion Cantata from KYOTO」を平成4年から継続して行い、京都のファッション



産業と観光産業の振興に協力しています。

平成22年9月に、この取り組みが評価され、「京都創造者賞2010(アート・文化部門)」を受賞しました。

#### 地域社会 社会福祉 文化・スポーツ活動等を通じた地域交流

文化・スポーツ等に関するクラブ活動を通じ、青少年の育成や地元の方々との交流に努めています。



JR西日本バンド連盟では、病院やイベント等で演奏を行い、地域の皆様に快適なひとときを過ごしていただいています。

## 職場ごとの活動

### 安全 安全教室の開催

地域の子どもたちに安全に鉄道をご利用いただくため、社員の有志が近隣の小学校などで安全教室を開いています。



徳山地域鉄道部では、若手社員が近隣の保育園を訪問し、自作のキャラクターが登場する紙芝居を使って踏切の渡り方を説明しています。



篠山口地区では、近隣小学校からの要請を受け、駅係員・乗務員・工務系統の社員が連携し、演劇形式で踏切への立ち入りの危険性を伝えていきます。

### 地域社会 駅や車両所における見学受け入れ・工場公開

鉄道に親しみ、鉄道の仕事を知っていただくため、地域の幼稚園や小学校のご要望にお応えし、当社の施設を見学いただいています。また、大規模な車両工場は年1回、地域の皆様に広く一般公開しています。



紀伊田辺駅では、駅見学を受け入れ、駅係員の仕事内容などを伝えています。



姫路鉄道部では、平成18年度から、近隣小学校の総合学習で、車両所を見学いただいています。

### 地域社会 地域と連携した清掃活動

支社やグループ会社、職場ごとに、またOBの方々とも連携しながら、沿線の観光地、駅周辺での清掃活動に参加しています。



JR西日本社員のほか、OBやグループ会社の社員が参加し、全国有数のアカウミガメの産卵地として知られる和歌山県みなべ町千里の浜海岸にて清掃活動を実施しています。

### 地域社会 地域イベントへの参加・開催

沿線地域の活性化に努めるため、地元主催の祭やイベントに、地域の一員として積極的に参加しています。



福井地域鉄道部では、福井市・大野市が企画したラッピング列車の運行にあわせて「越美北線開業50周年」イベントを福井駅、越前大野駅で行いました。

京都支社、(株)ジェイアール西日本デイリーサービスネット、(株)JR西日本ヴィアインでは、祇園祭の山伏山巡行のお手伝いをさせていただきました。

→社会貢献活動の取り組み事例についてはこちらをご覧ください。  
<http://www.westjr.co.jp/company/action/contribution/>

## 財団を通じた活動

JR西日本あんしん社会財団は、福知山線列車事故を踏まえ、「安全で安心できる社会」の実現に寄与したいとの思いから、JR西日本が基本財産の全額を寄付拠出し設立され、平成22年1月に公益認定を受けた公益財団法人です。

この財団では、様々な専門分野の多くの有識者の方々に役員等と



平成22年3月、公共交通機関の安全を考える「安全セミナー」を開催しました。



平成22年10月、JR西日本との共催で「救急フェア」を行い、AED操作や心肺蘇生法、駅非常ボタンなどを体験していただきました。



事故や災害等により愛する人をなくした方の悲しみ、苦しみに共感し、共に歩むことをテーマとする上智大学グリーンケア研究所公開講座「『悲嘆』について学ぶ」に助成を行っています。(尼崎市の聖トマス大学構内において開講)

して参画いただきながら、上智大学「グリーンケア研究所」や京都大学「社会基盤安全工学講座」への寄付助成をはじめ、公募助成等で事故、災害などによって被害に遭われた方々への心身のケアや地域社会の安全構築に関する活動・研究への支援助成を行うほか、「安全セミナー」や「救急フェア」といった普及啓発活動に取り組んでいます。

医師として数多くの患者を看取り、またそのご遺族のケアを行い、多くの「悲嘆」に接してきた経験から、専門家だけでなく社会全体で心のケアのあり方を考えていくことが極めて重要であると感じています。

心のケアとは、ケアを必要とする人の心に寄り添うこと、すなわち生きる意味や価値観といった「いのち」そのものに向き合うことから始まるものではないかと思えます。

現代社会にあって、この財団が心身のケアや地域社会の安全構築といった「いのち」に関わるテーマに積極的に取り組むことは非常に意義深いものと考えています。私はこれまでの経験を活かし、財団の事業の充実のため、微力ながら全力を尽くしてまいります。



JR西日本あんしん社会財団理事  
柏木 哲夫

大阪大学名誉教授  
学校法人金城学院大学学院長  
金城学院大学学長  
(略歴)昭和59年に西日本最初のホスピスを開設され、多くの末期がんの患者をケアされてきました。  
現在、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長。